

平成28年度 全国学力・学習状況調査及び県調査の武雄市結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取り組み、武雄市の取り組みが分かっていたるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は小学校6年生、中学校3年生は全国学習状況調査、それ以外は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、算数(数学)共にA問題、B問題という2種類の調査で成り立っています。おおむねA問題は基本的な問題、B問題は思考力を要するような問題です。

各学校のホームページには学校ごとの分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

実態分析と改善に向けた 具体的な取組

武雄市 小学校全体

28年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

【武雄市小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移と正答数分布グラフ

学習状況調査結果の推移

(資料1)

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学	64.7			64.7		
現5年	(0.98)			(0.96)		
H23 入学	62.6	72.8	57.7	65.2	76.6	47.2
現6年	(1.00)	(1.00)	(1.01)	(1.00)	(0.99)	(1.02)
H28 正答率の全国比		(1.00)	(1.00)		(0.99)	(1.00)

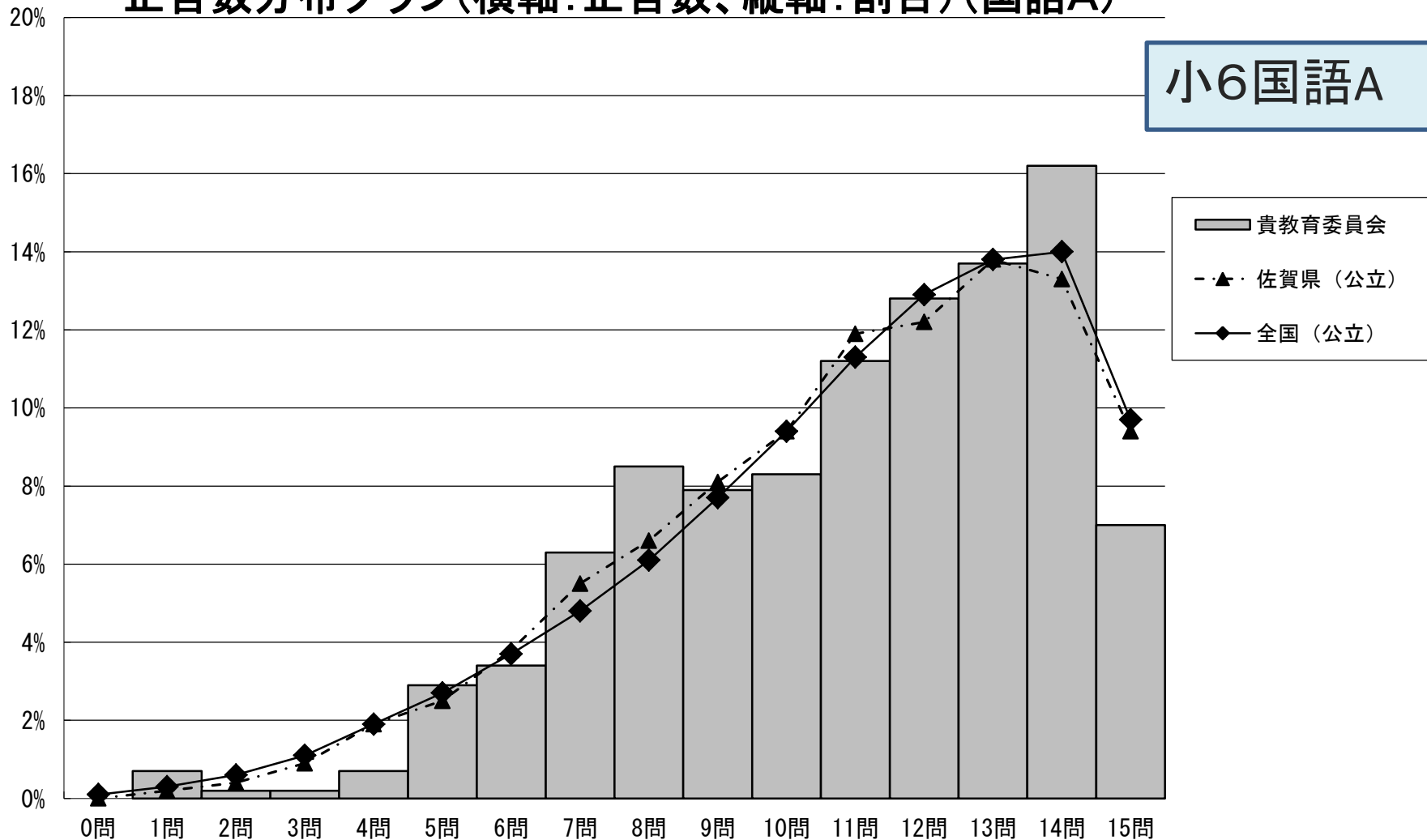
◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)(国語A)

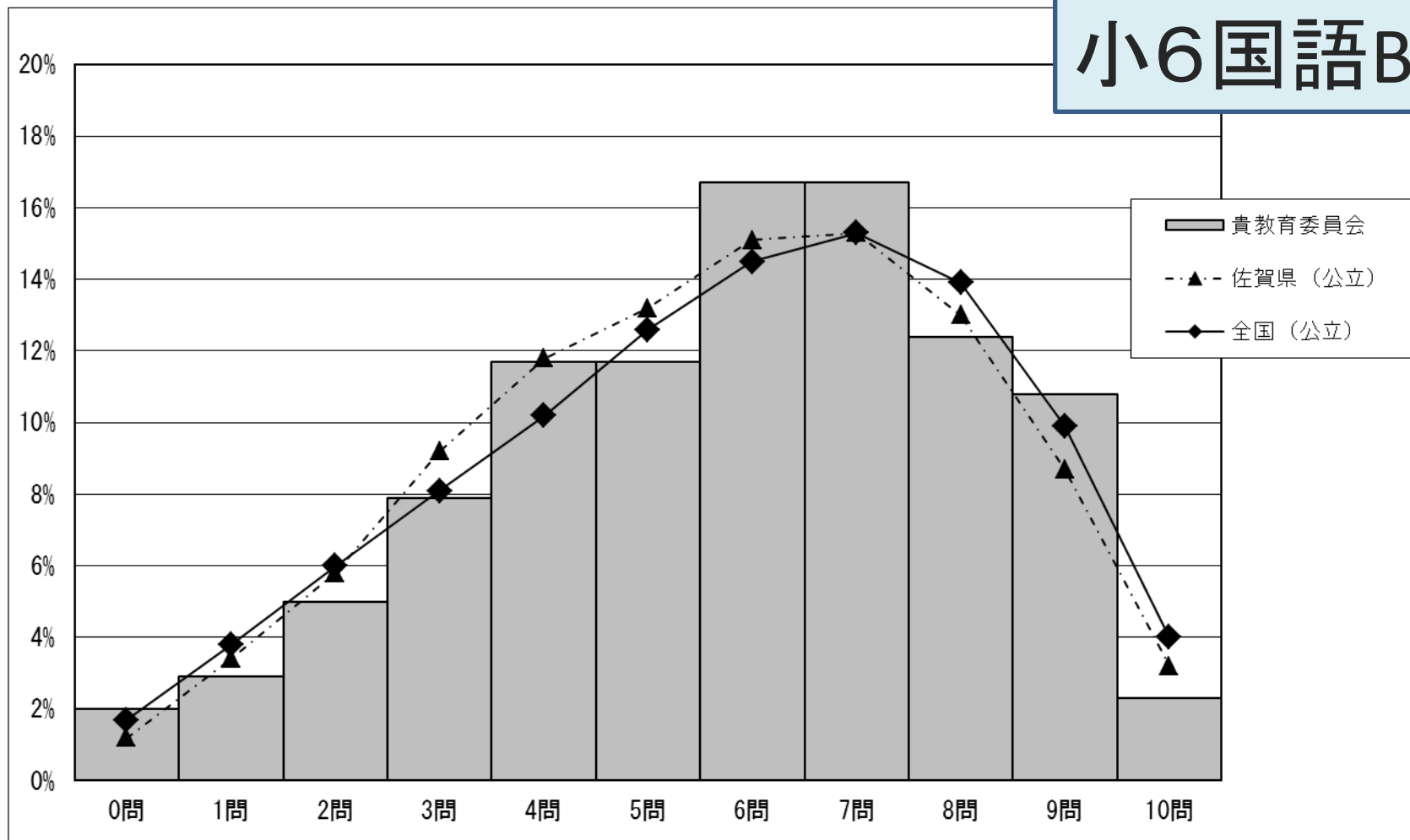
小6国語A



文部科学省 全国学力学習状況調査(小学校)結果より

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)(国語B)

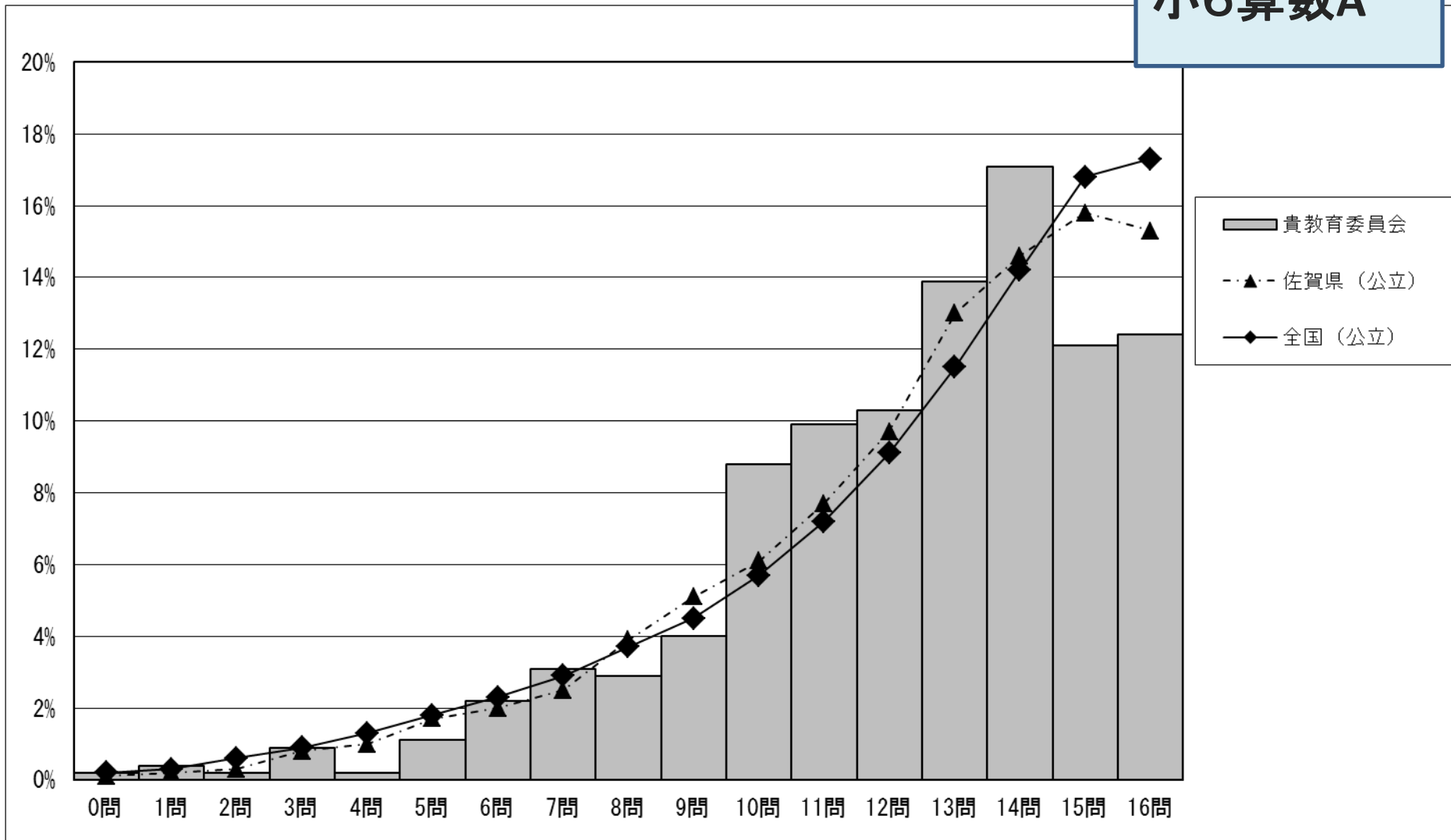
小6国語B



文部科学省 全国学力学習状況調査(小学校)結果より

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)(算数A)

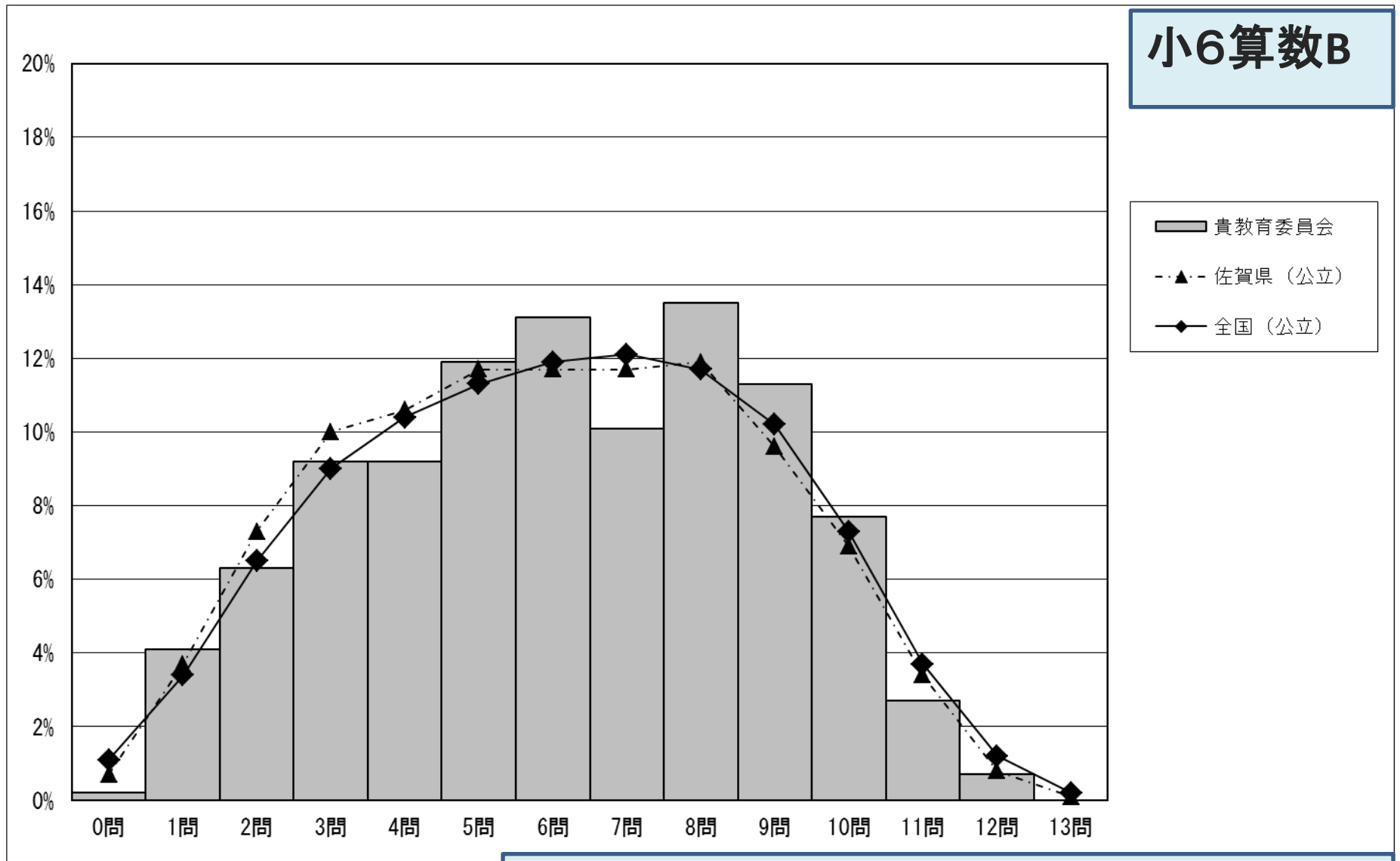
小6算数A



文部科学省 全国学力学習状況調査(小学校)結果より

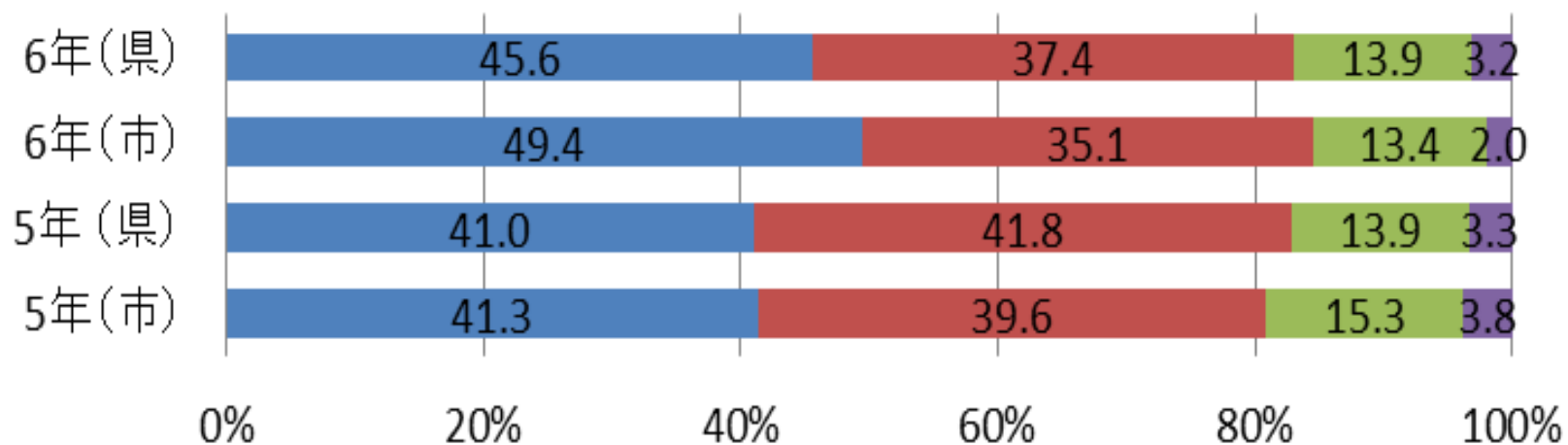
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)(算数B)

小6算数B



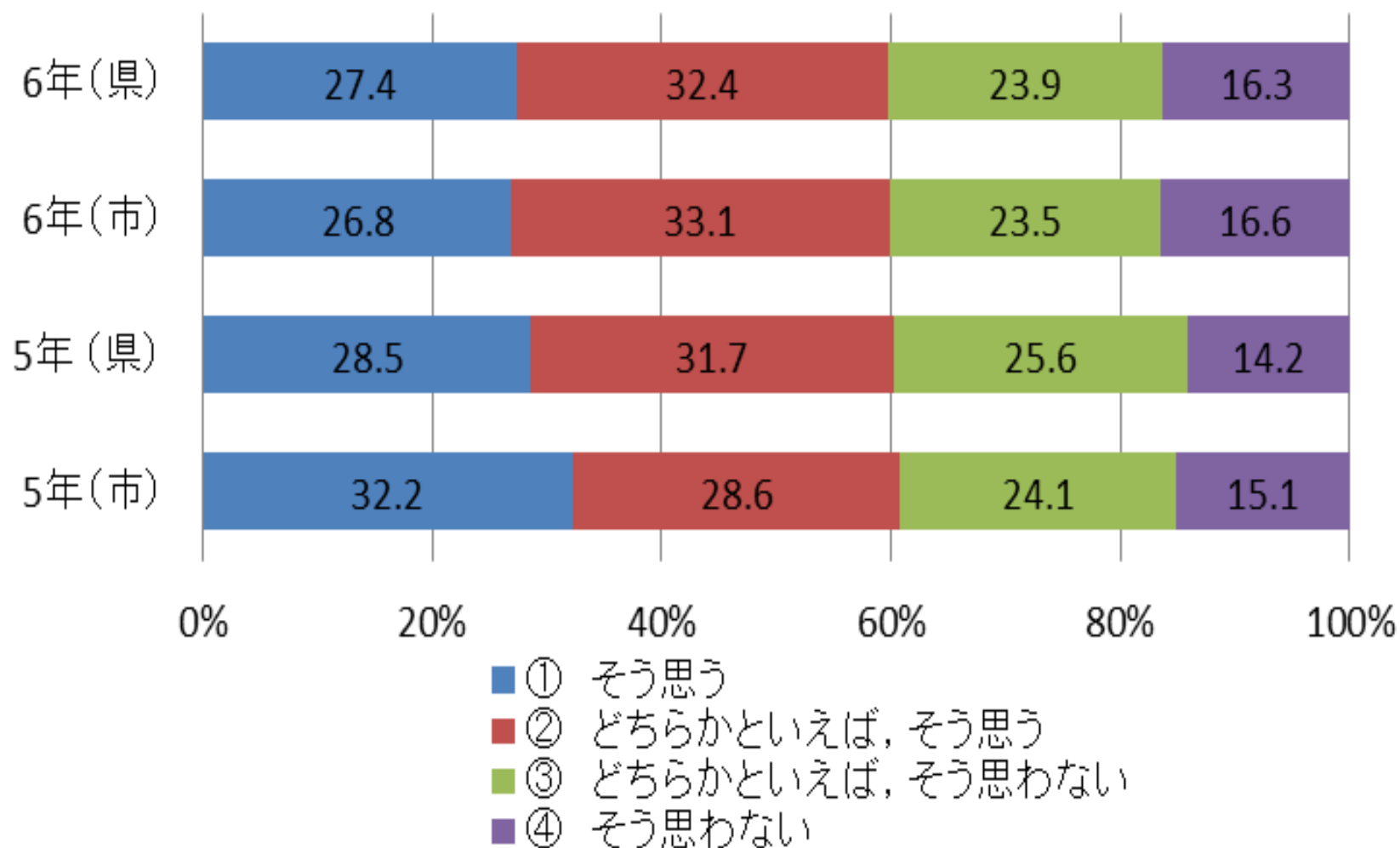
文部科学省 全国学力学習状況調査(小学校)結果より

ふだんの授業では、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思う

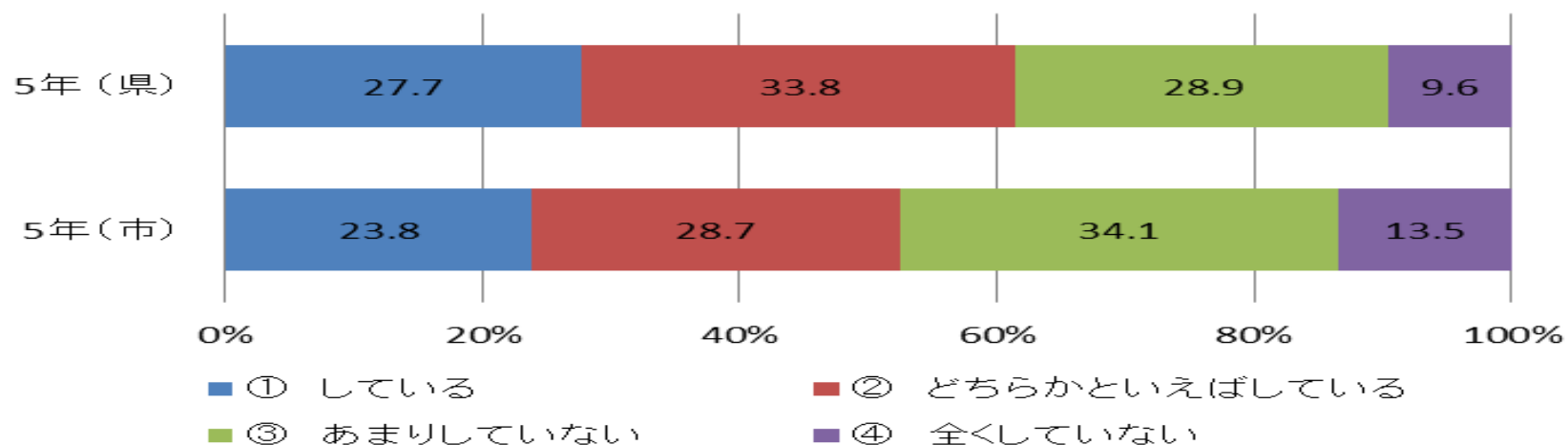


- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない

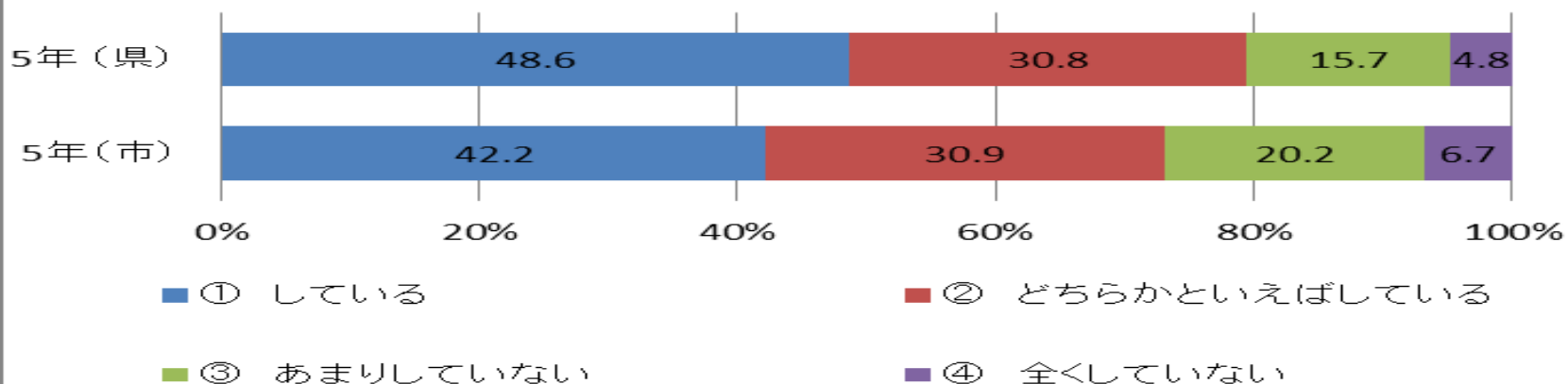
学校の授業などで自分の考えをほかの人に説明したり文章に書いたりすることは難しい



苦手な教科の勉強をしている



テストで分からなかった問題や間違った問題についてやり直しをしている



(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態(小学校)

- ・国語A、B、算数Bに関しては、県・全国と同等、あるいはわずかに上回る結果であった。算数Aは、
県・全国と比較すると、わずかではあるが0.01ポイント下回っている。算数Bに関しては、昨年度、県・全国平均と比較して下回っていたが、今年度は、全国平均とは同等、県平均よりわずかに上回った。これはスマイル学習（武雄式反転学習）の徹底と継続の中で、思考力・判断力・表現力の向上に重点を置いて授業改善を行ったことによる結果の表れだと考える。
- ・正答数分布グラフからいえることは、国語AB算数ABともに中間層は比較的厚いが、全問正解者（高得点層）が少ないということである。
- ・意識調査の結果から分かるように「話し合いの時間は比較的とられている」と回答している児童が5、6年生ともに県平均と同等、または上回っているが、その反面「自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答している児童は県平均をわずかに上回っている。
- ・また県調査5年生の意識調査の結果からは、学び方の課題として「苦手な教科の勉強をしている。」「テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている。」に関しては県平均を大きく下回っていた。5年生の結果ではあるものの本市の傾向としては他の学年にもいえるのではないかと思われる。

2 改善に向けた具体的な取組

【以下の内容について各学校に通知し、共通の取り組みとしていく】

- ・昨年度、西部型授業スタイルの徹底をはかり、めあての設定から「まとめ・振り返り」までを確実に行う授業の確立を推進してきたが、それに加えて今年度は、「まとめ」「振り返り」の時間を充実させ、具体的には、「自分の言葉で書く」「学習用語をいれるなどの条件をつけて書く」等の取り組みを行う。
- ・スマイル学習（武雄式反転学習）等の授業開発を26年度から行ってきたがより効果を上げていくために授業作りについての課題検証が必要な時期であると考え。授業展開においては、終末の時間に「発展学習」などの時間を組み、積極的に難易度の高い問題にも取り組ませることで、正答数分布の上位群を増やしていく。「ICT利活用教育オープンデー」の実施にあたって授業作り（指導案検討など）の際に指導主事が、学校に出向く機会を多く設け、事前指導をより充実させる。小学校の国語科の学力を向上させるために、スマイル学習（国語）の動画コンテンツ作りを引き続き進め、教材研究を深めるとともに国語の授業作りの研修会も開催する。（「STと学ぶ会」と並行して）
- ・意識調査の結果の中にもあったように、「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う。」は県平均と比較しても高い割合で「当てはまる」と答えている。しかしながら、「学校の授業で自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う」の設問には、県と比較して高い割合の児童が「そう思う」と答えている。つまり、話し合いや説明の時間は意識してとっているが、思考力・判断力・表現力に課題があるため、表現することを苦手とする児童が多いということが分かる。考える力をつける課題の設定や「書くこと」「話すこと」の基本的なスキルを身につけていくような学習指導も必要である。この点は、教師側の指導力向上の視点として挙げておく。
- ・学校や家庭における「学び方」の課題としては、意識調査からも「苦手な教科の勉強をしている」「テストで分からなかった問題や間違った問題についてやり直しをしている」という児童が県平均と比較して少ない。個々の児童の実態に沿って、個別指導や全体指導などを使い分け、「学び方」を身につけさせていく必要がある。

実態分析と改善に向けた 具体的な取組

武雄市 中学校全体

28年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

【武雄市中学校】

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

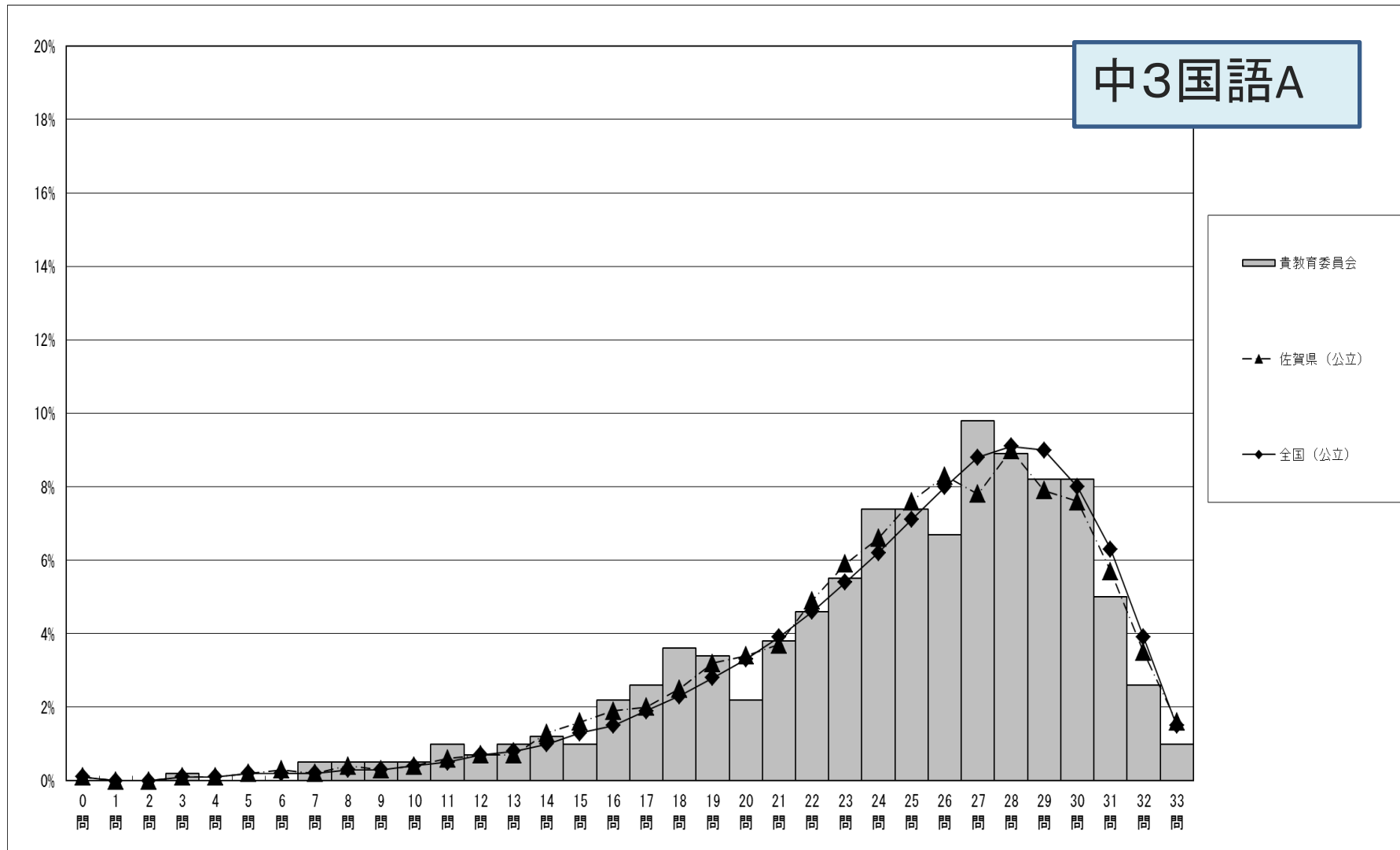
	国語				数学			
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時	
			A	B			A	B
H28入学	66.5				67.3			
現1年	(0.97)				(0.92)			
H27入学	73.8	62.7			68.6	50.5		
現2年	(1.01)	(0.95)			(0.96)	(0.92)		
H26入学	70.0	66.8	74.1	63.4	68.4	54.2	58.3	40.3
現3年	(1.00)	(0.99)	(0.99)	(0.98)	(0.97)	(0.95)	(0.98)	(0.98)
H28 正答率の全国比			(0.98)	(0.95)			(0.94)	(0.91)

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「H28 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

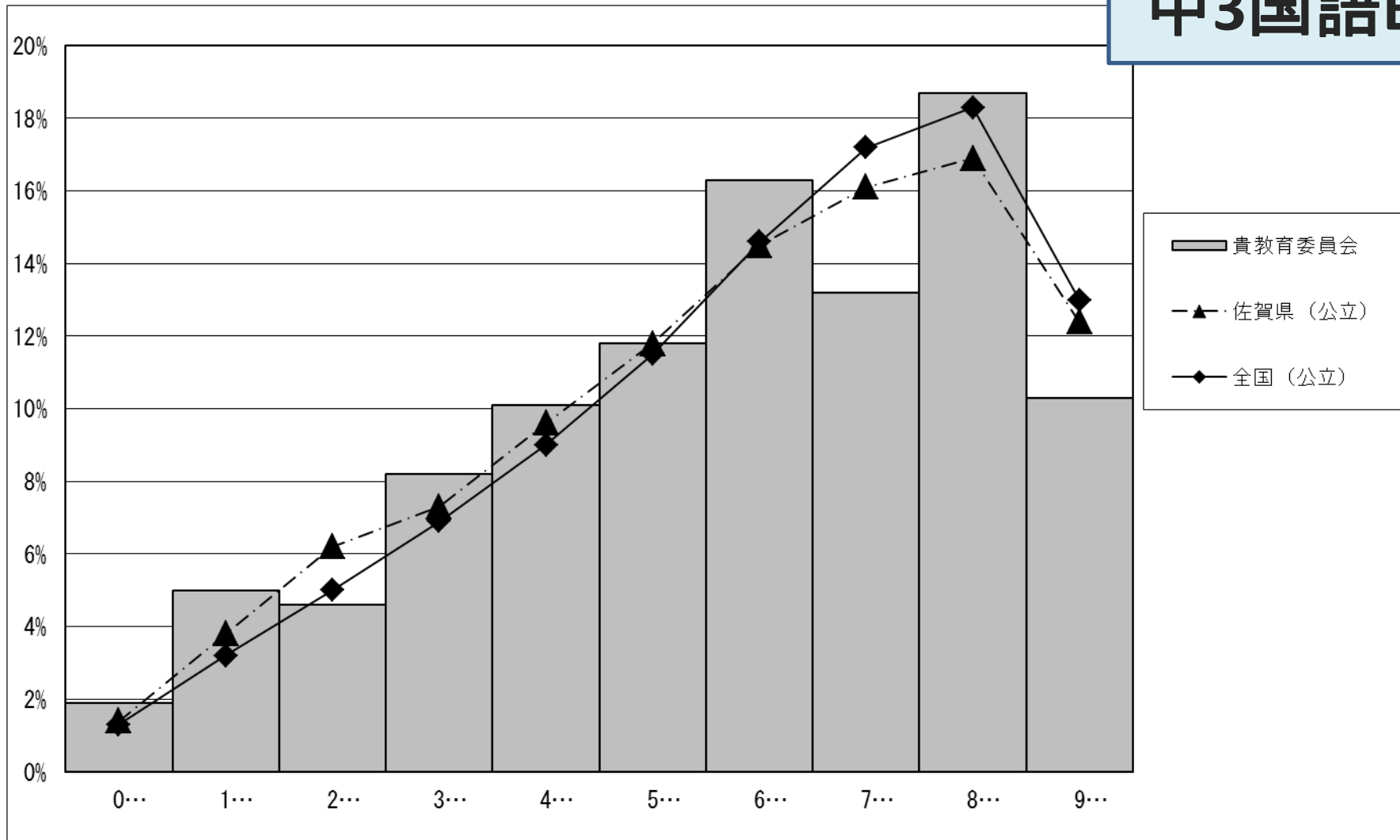
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)(国語A)



文部科学省 全国学力学習状況調査(中学校)結果より

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)(国語B)

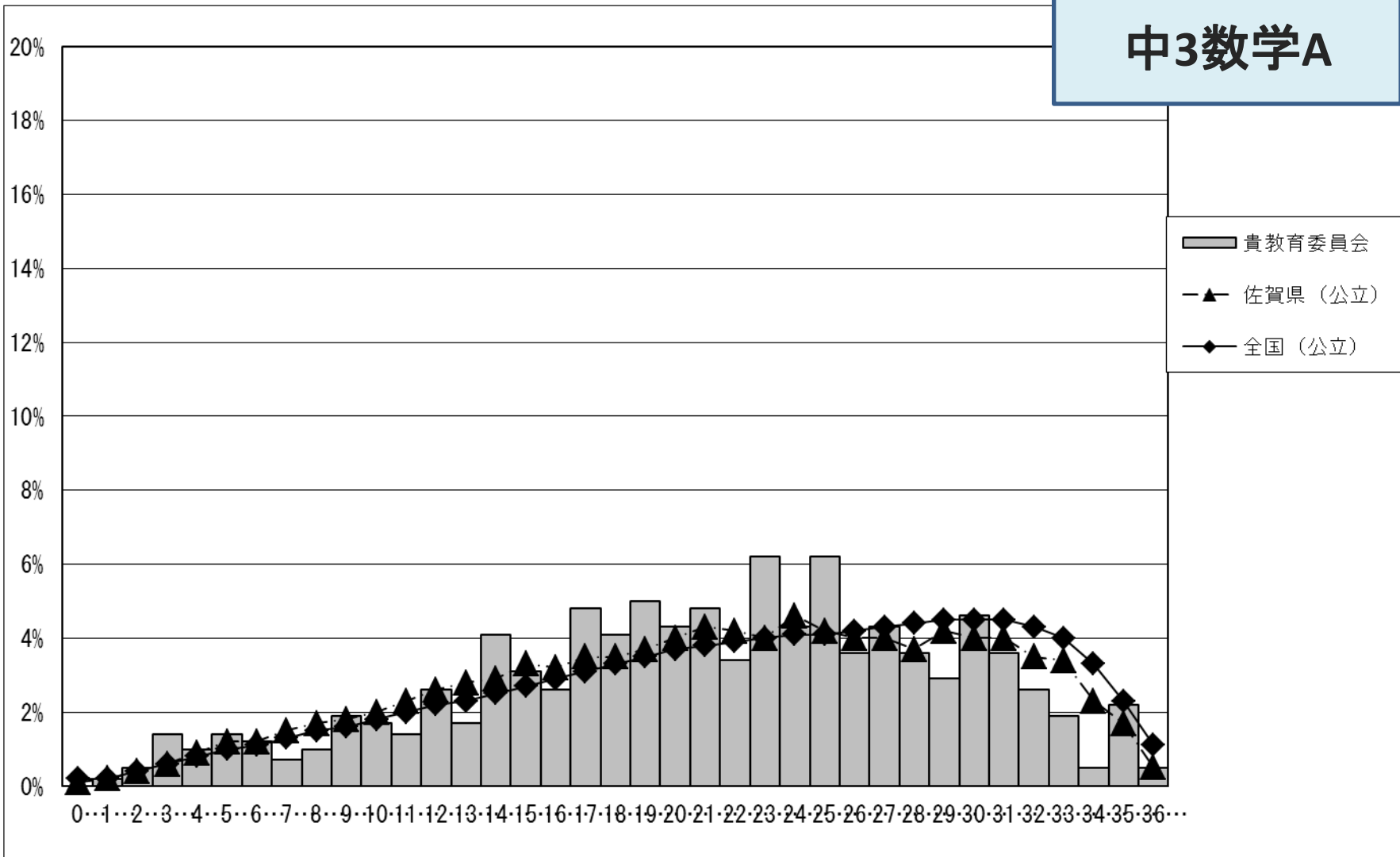
中3国語B



文部科学省 全国学力学習状況調査(中学校)結果より

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)(数学A)

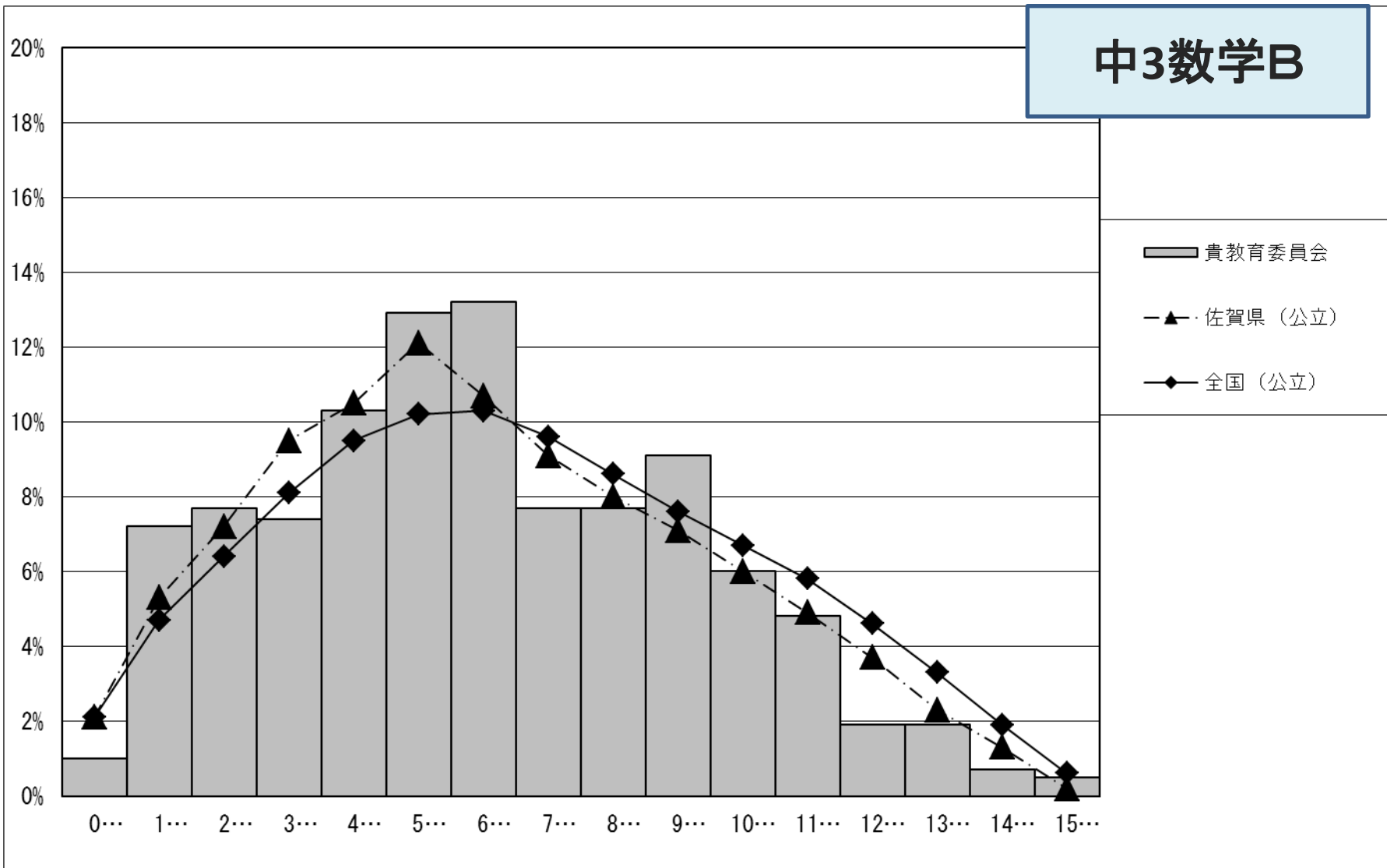
中3数学A



文部科学省 全国学力学習状況調査(中学校)結果より

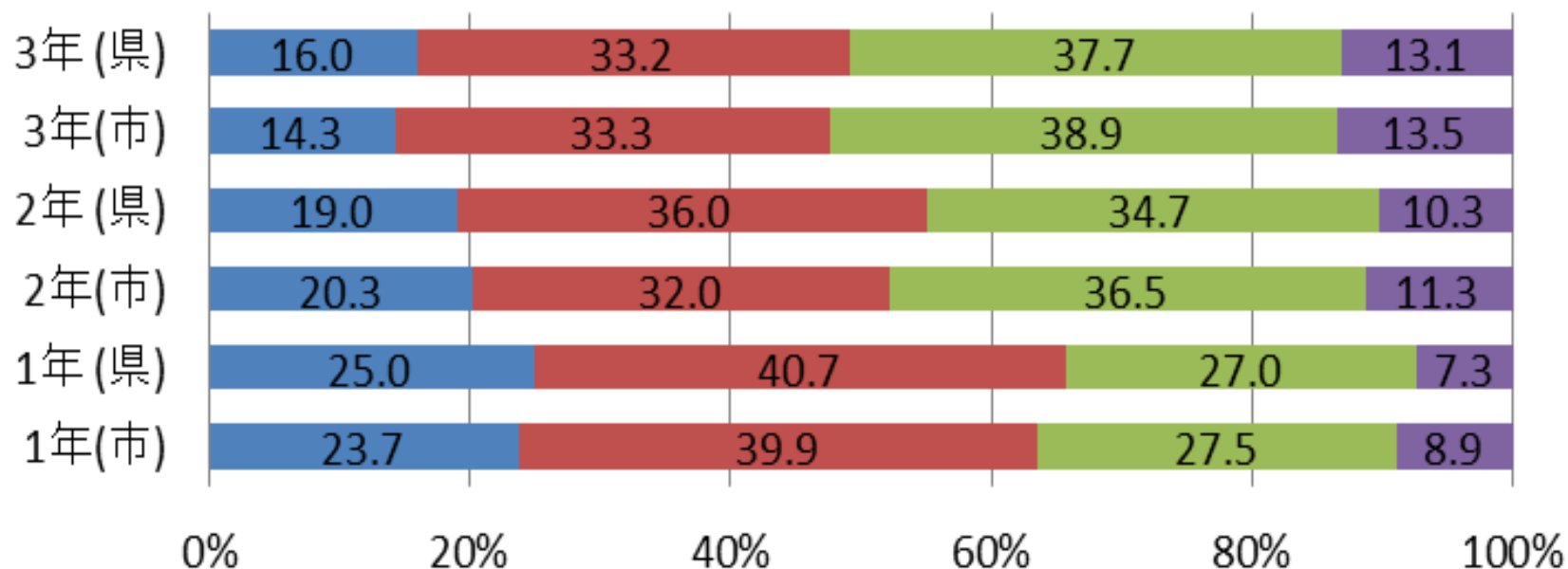
正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)(数学B)

中3数学B



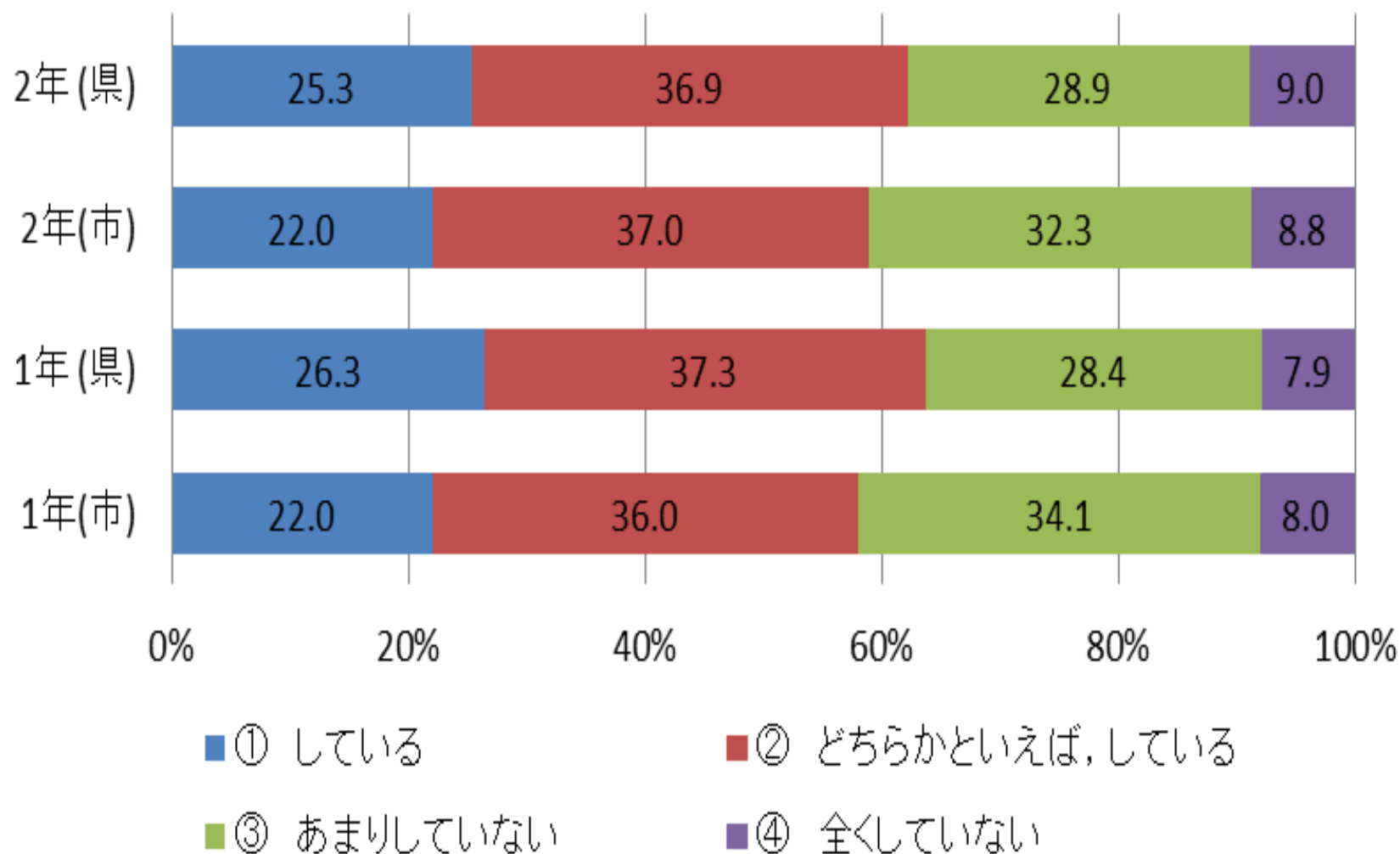
文部科学省 全国学力学習状況調査(中学校)結果より

自分で計画を立てて勉強をしている

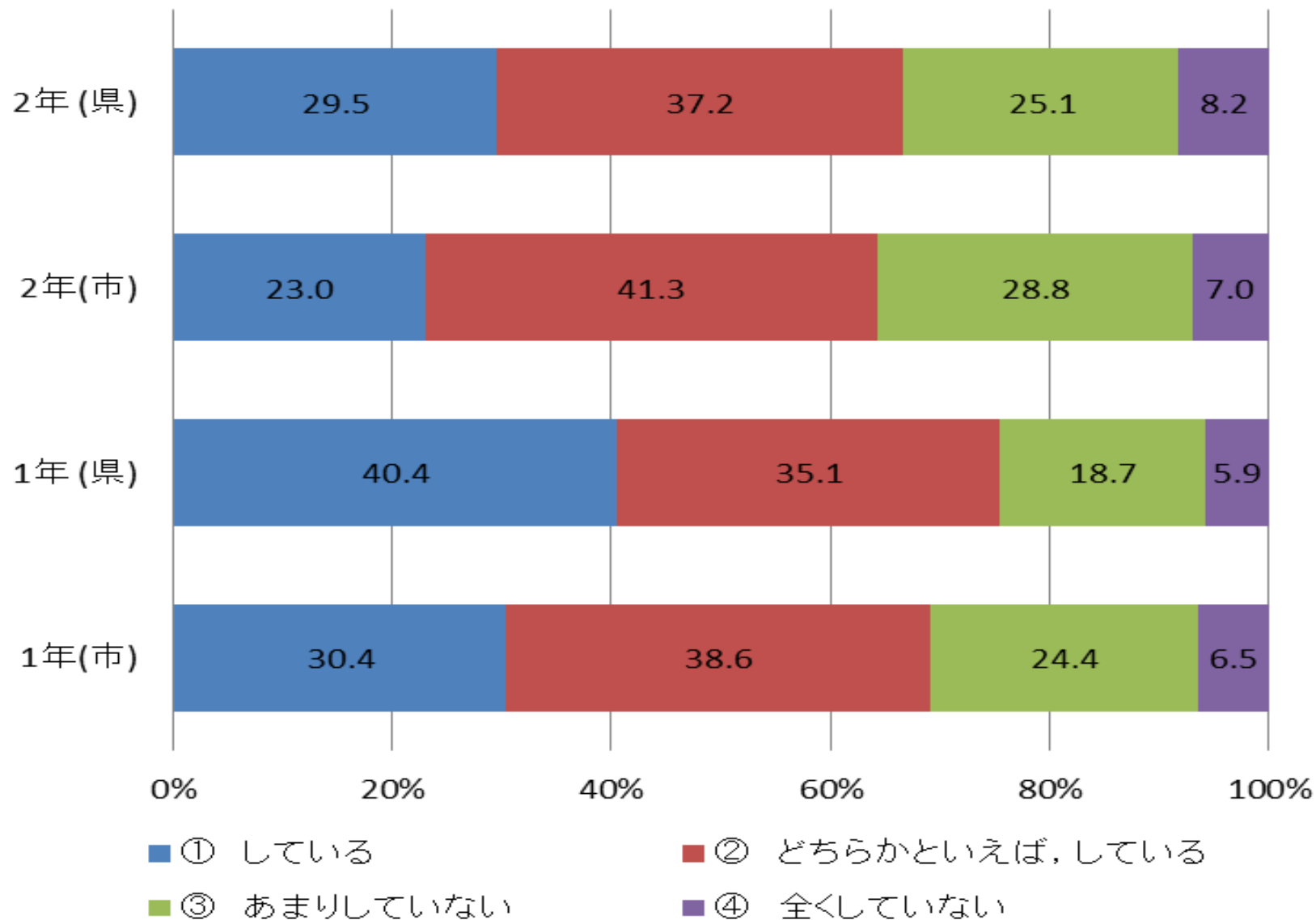


- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない

苦手な教科の勉強をしている



テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている



(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態(中学校)

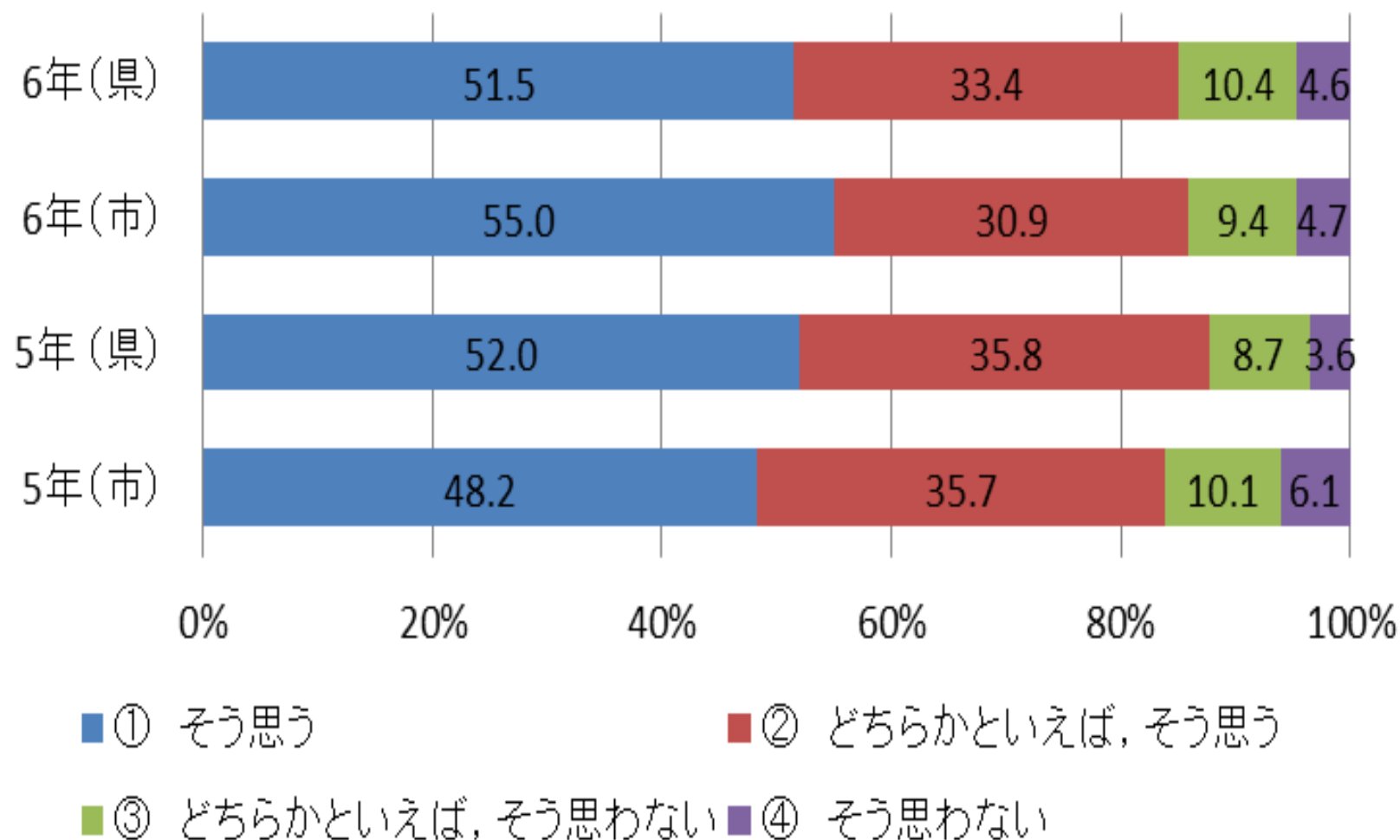
- ・3年生の全国調査の結果においては、全区分で全国平均・県平均を下回っている。このうち、国語A、Bにおいては県平均との差が前回より縮小し、改善されてきている。
- ・1, 2年生の県調査の結果においては、国語・数学ともに県平均を下回っている。
- ・全学年とも各教科、全項目に共通して記述式問題での正答率が低い。
- ・正答数分布グラフからいえることは、国語・数学ともに中間層は比較的厚いが、全問正解者（高得点層）が少ないということである。
- ・意識調査の結果から「計画を立てて勉強している」の設問で「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は、県平均と比べて下回っている。これは3学年共通した結果であり指導の重点項目である。
- ・また県調査1, 2年生の意識調査の結果からは、学び方の課題として「苦手な教科の勉強をしている。」「テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている。」に関しては県平均を大きく下回っていた。

2 改善に向けた具体的な取組

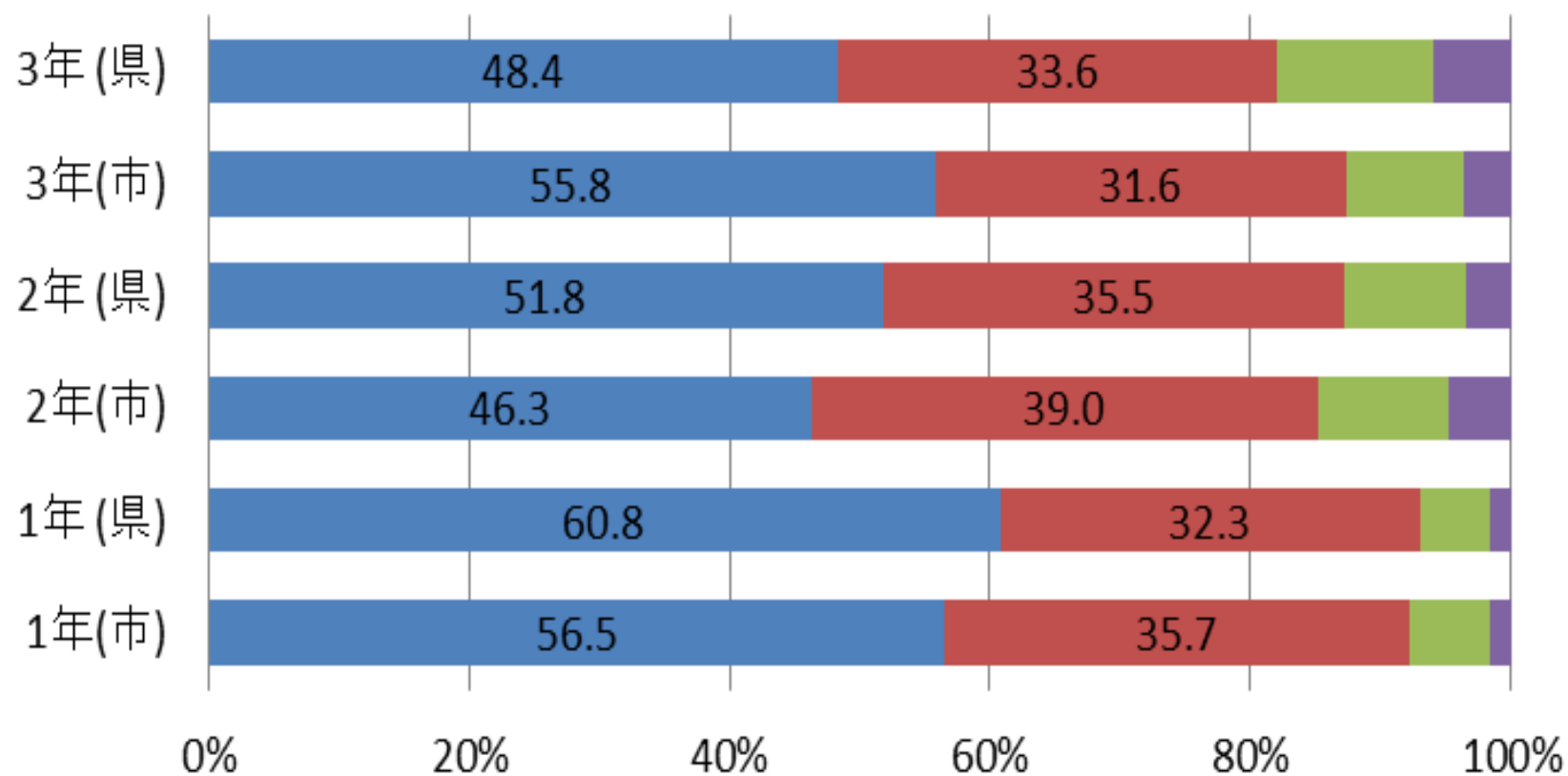
- ・西部型授業スタイルの徹底を図り、めあての設定からまとめ・振り返りまでを確実に行う授業の確立をめざす。スマイル学習（武雄式反転学習）等を含めたICT利活用教育を通して学力向上を実現するために授業作りについての課題検証が必要な時期であるとする。（校内研修の活性化を図る。）
- ・教科間を超えた共通した学習過程の確立や各教科ごとの特質を生かした言語活動の充実を図ることにより
確かな力の定着を目指す。
- ・アクティブラーニングの研修を深めている学校も増えてきたので、協働的な学びの場づくりの支援を行っていく。
- ・「自分で計画を立てて学習する」に関する設問では、「している」「どちらかといえばしている」と回答した生徒が3学年ともに県平均を下回っていたことから各学校重点的に取り組んでいることであるが、今後さらに家庭と連携した家庭学習の習慣化（学習時間の確実な確保など）を図る必要がある。
- ・意識調査の結果より、学び方の課題として1，2年生に共通していたところは「苦手な教科の勉強をしている。」「テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている。」に関しては県平均を大きく下回っていた。3年生の受験期にかかわらず、下学年の段階から課題解決の方法を指導していく必要がある。

学習状況調査 質問紙より
(武雄市 小中共通項目)

学校に行くのは楽しいと思う



学校に行くのは楽しいと思う



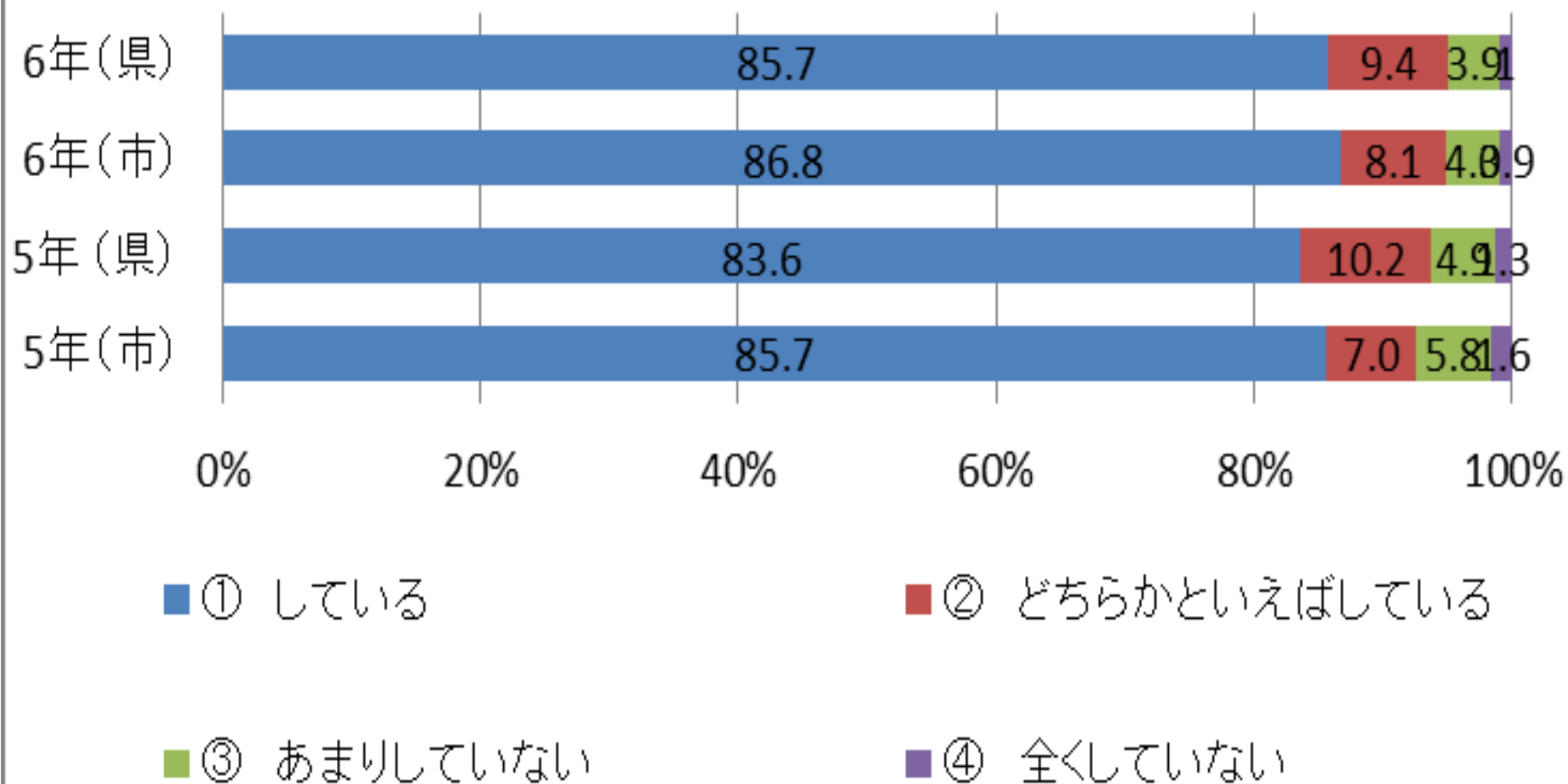
■ ① そう思う

■ ② どちらかといえば、そう思う

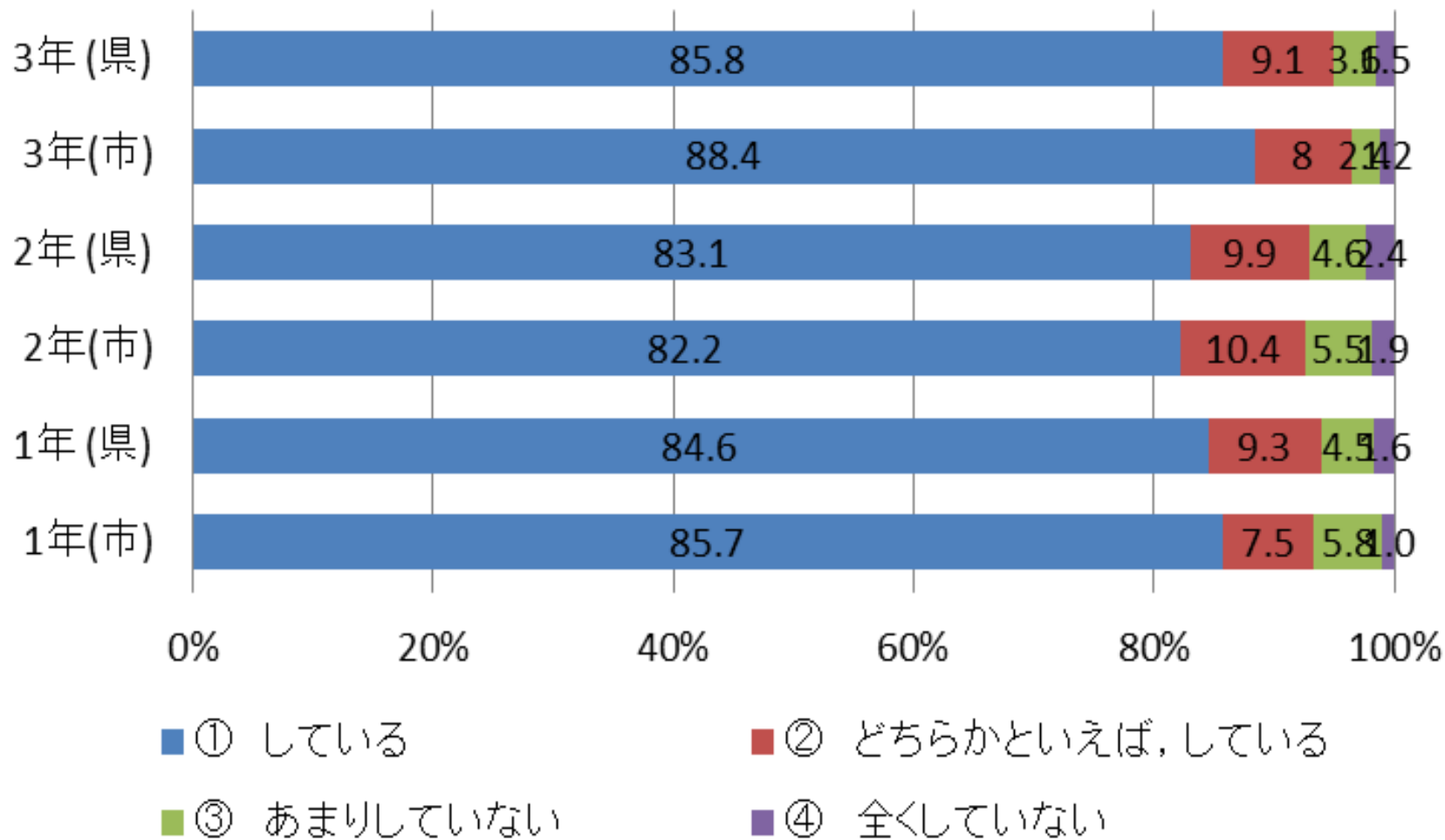
■ ③ どちらかといえば、そう思わない

■ ④ そう思わない

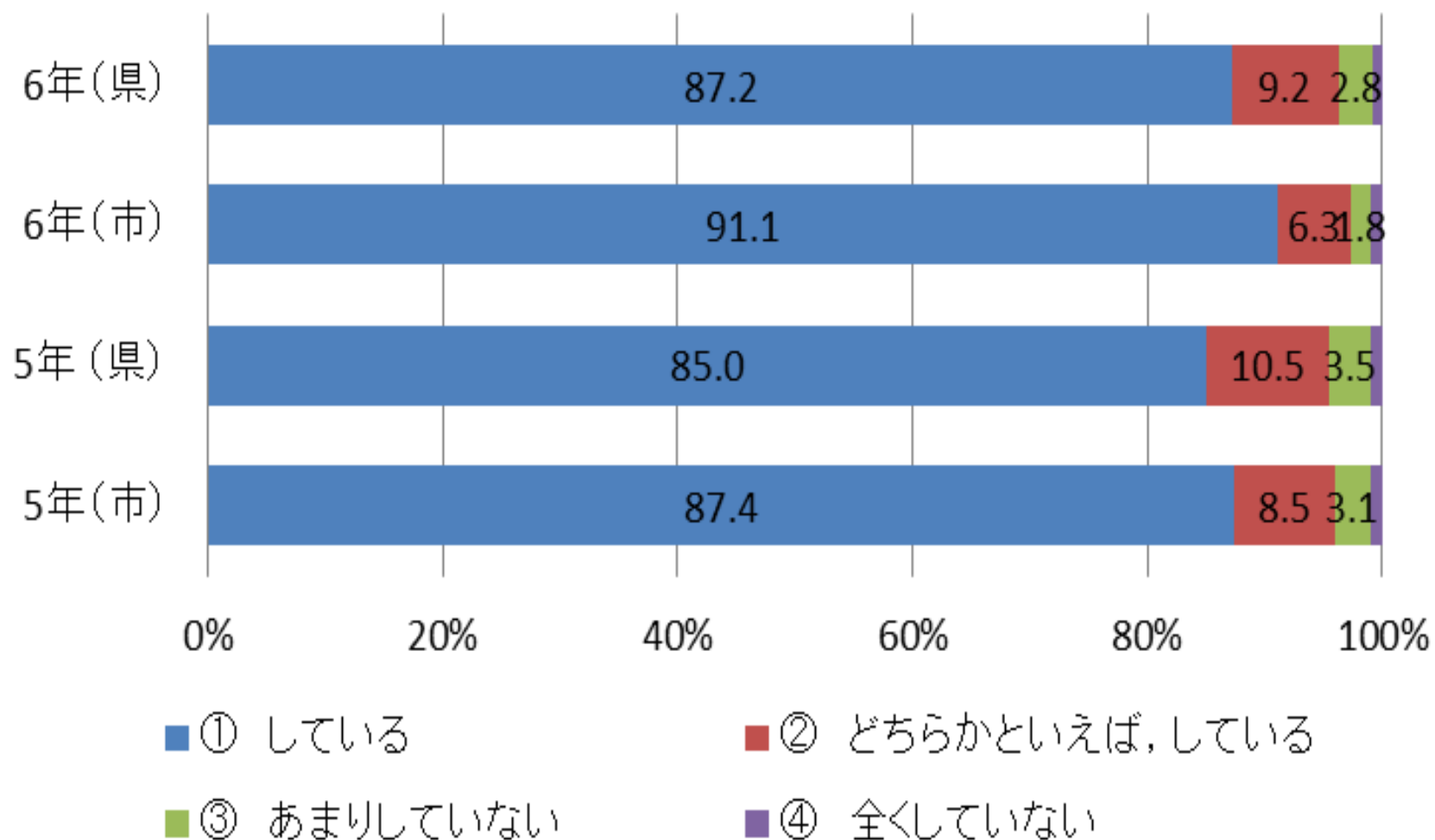
朝食を毎日食べている



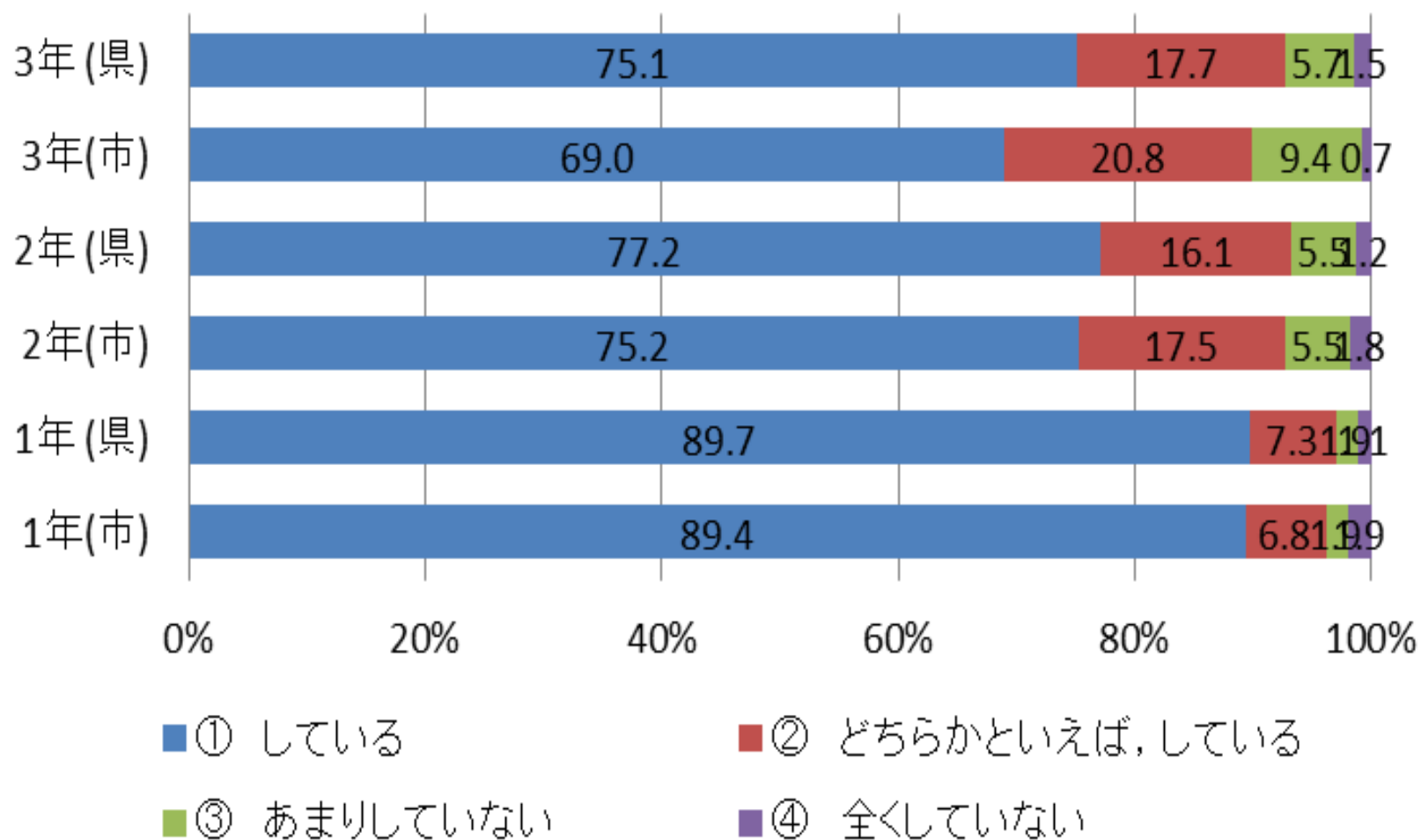
朝食を毎日食べている



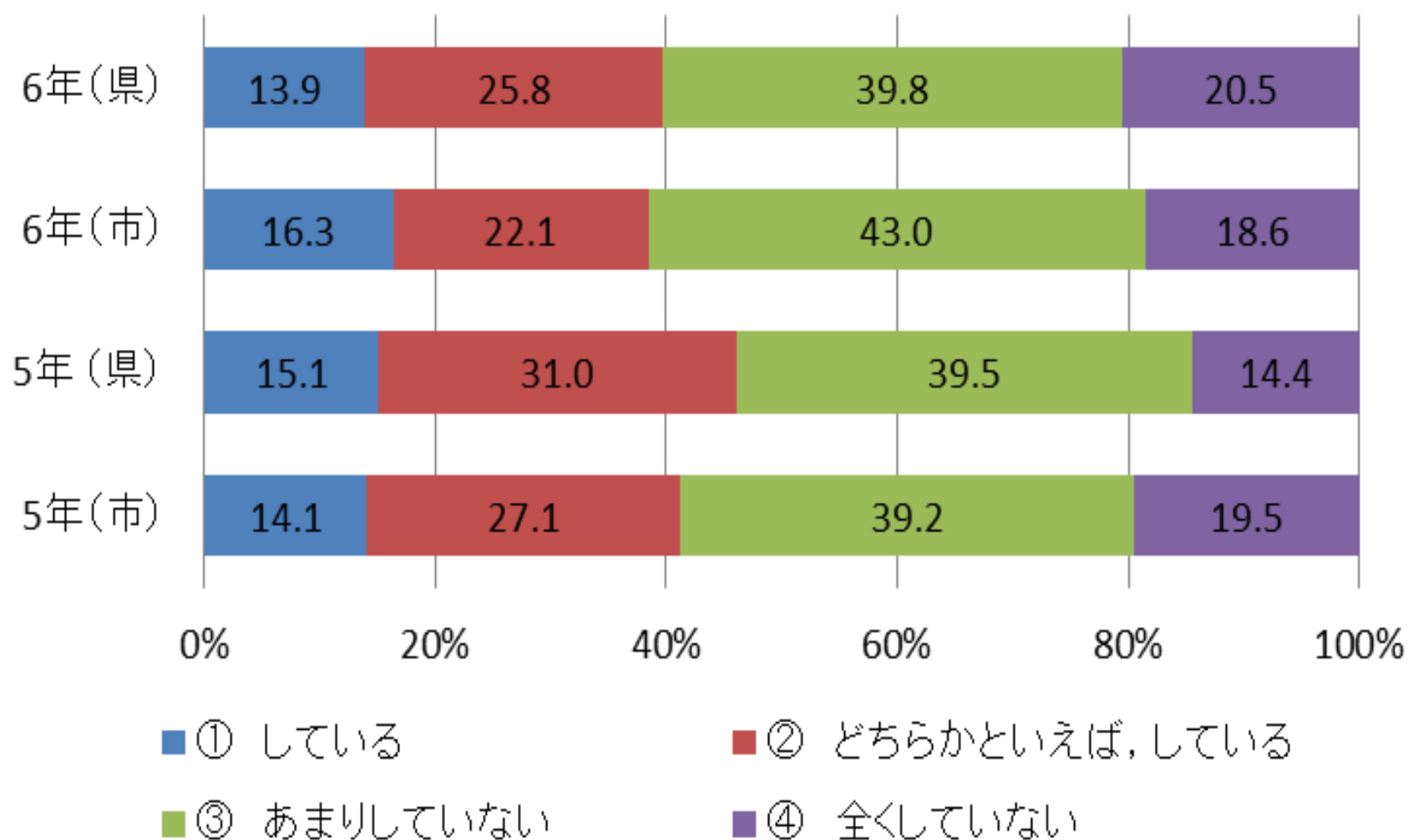
学校の宿題をしている。



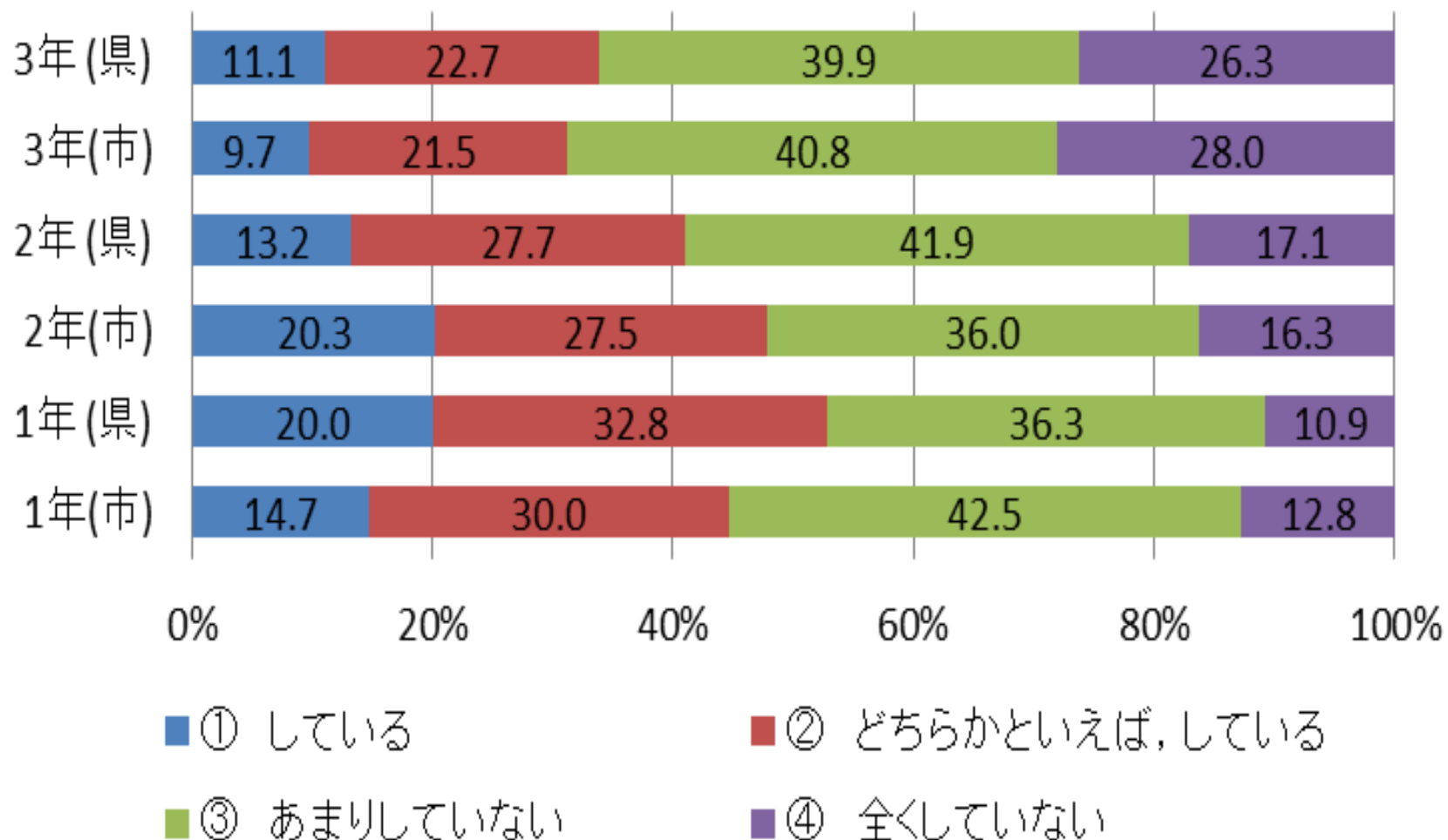
学校の宿題をしている。



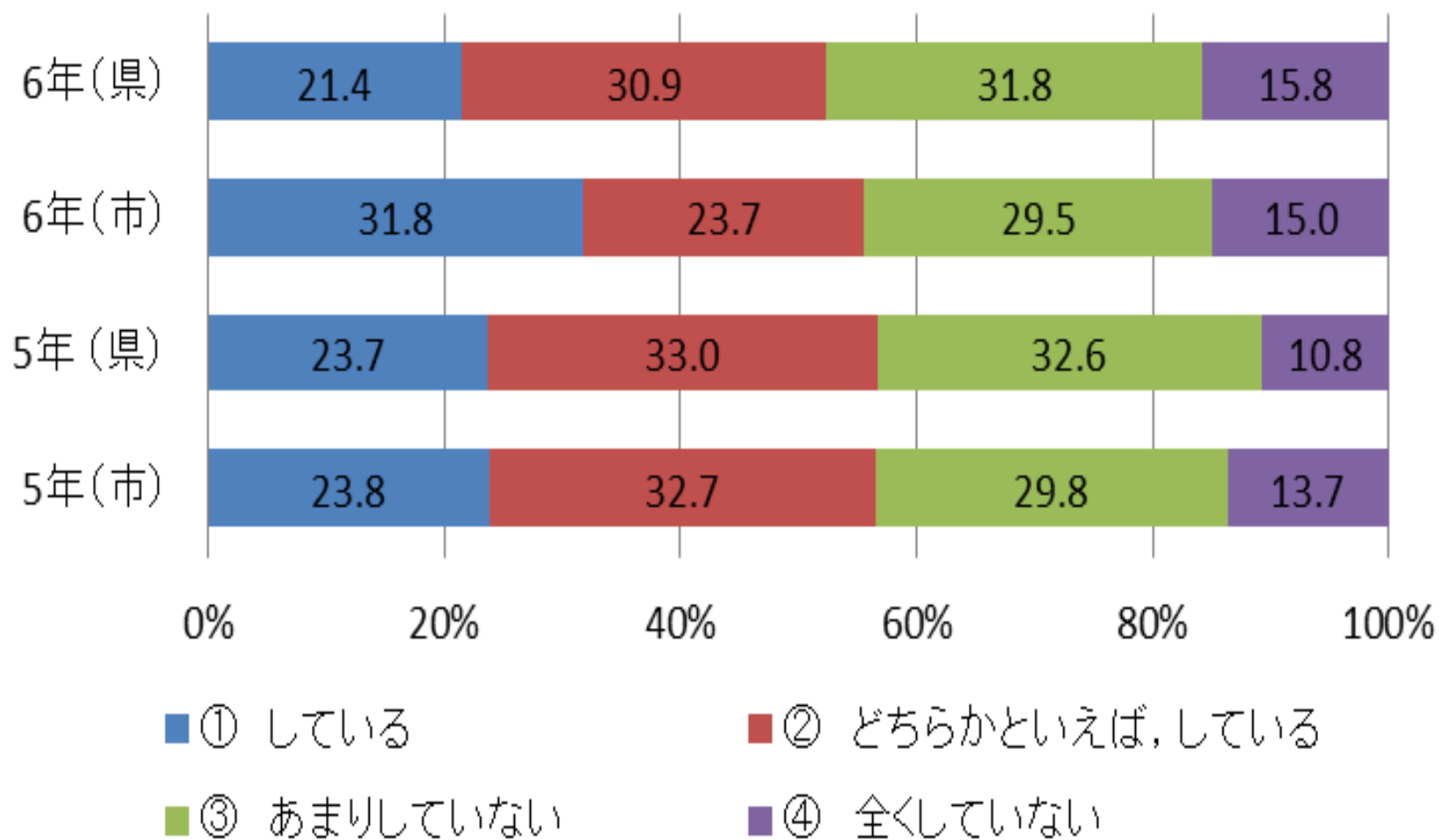
学校の授業の予習をしている。



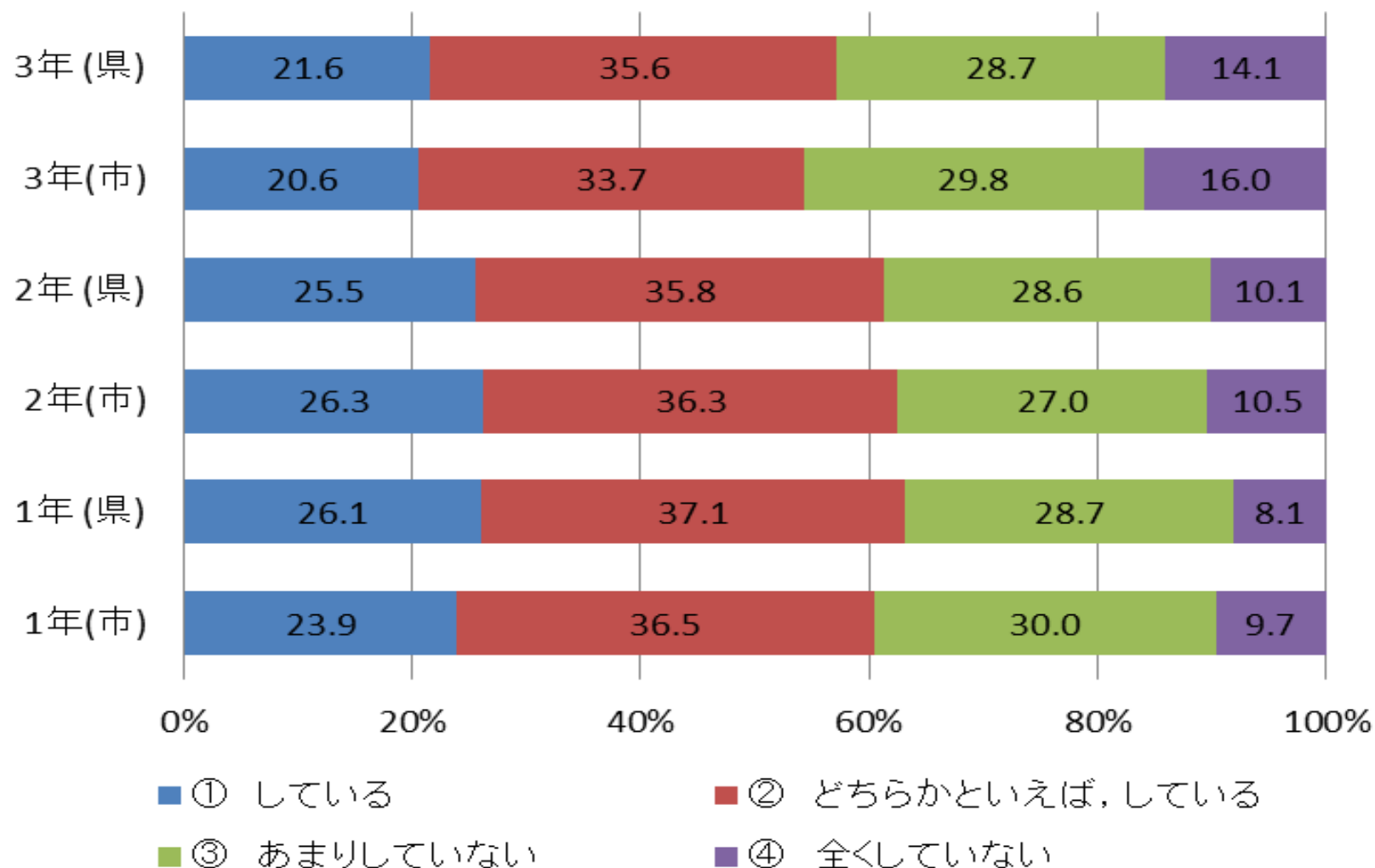
学校の授業の予習をしている



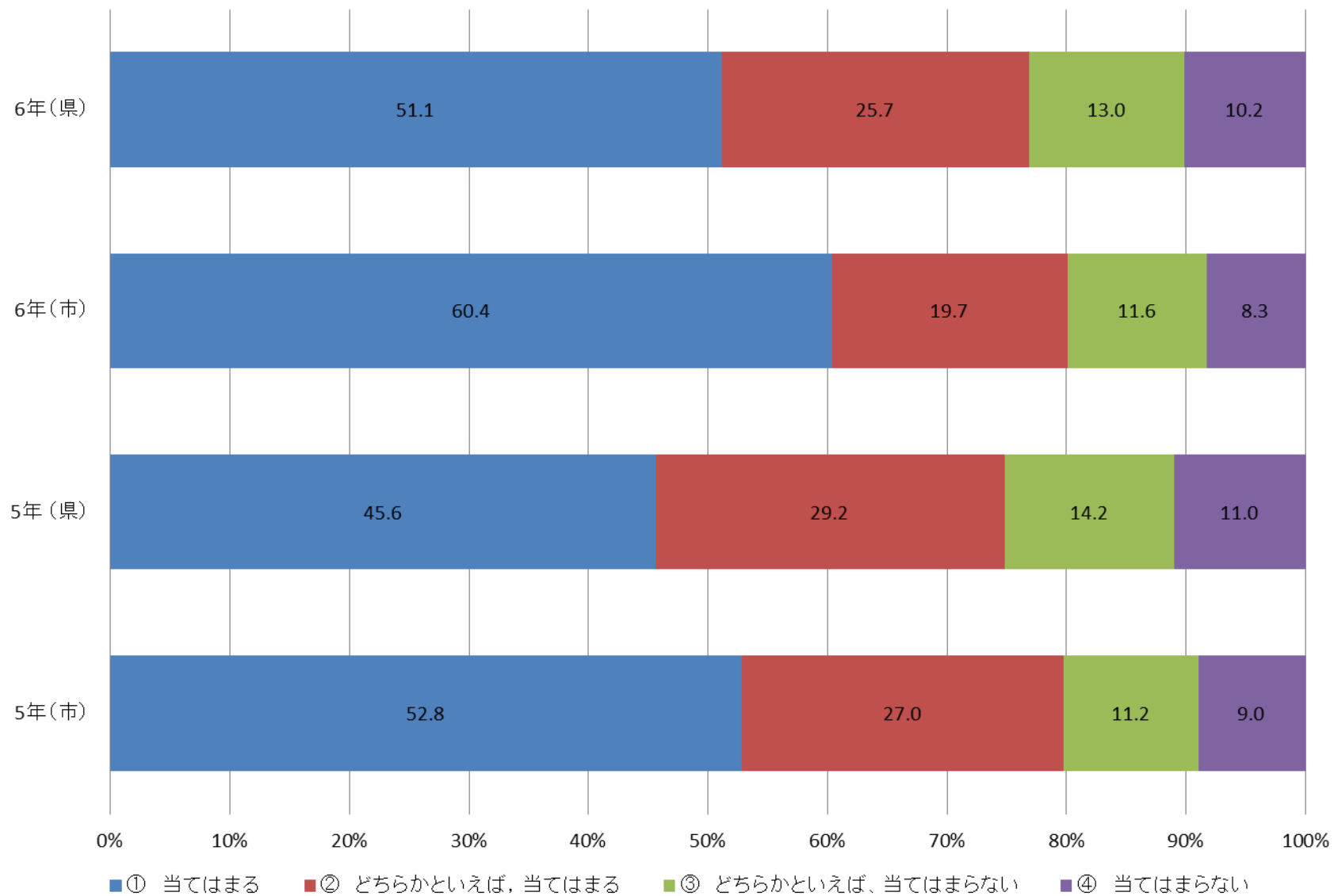
学校の授業の復習をしている。



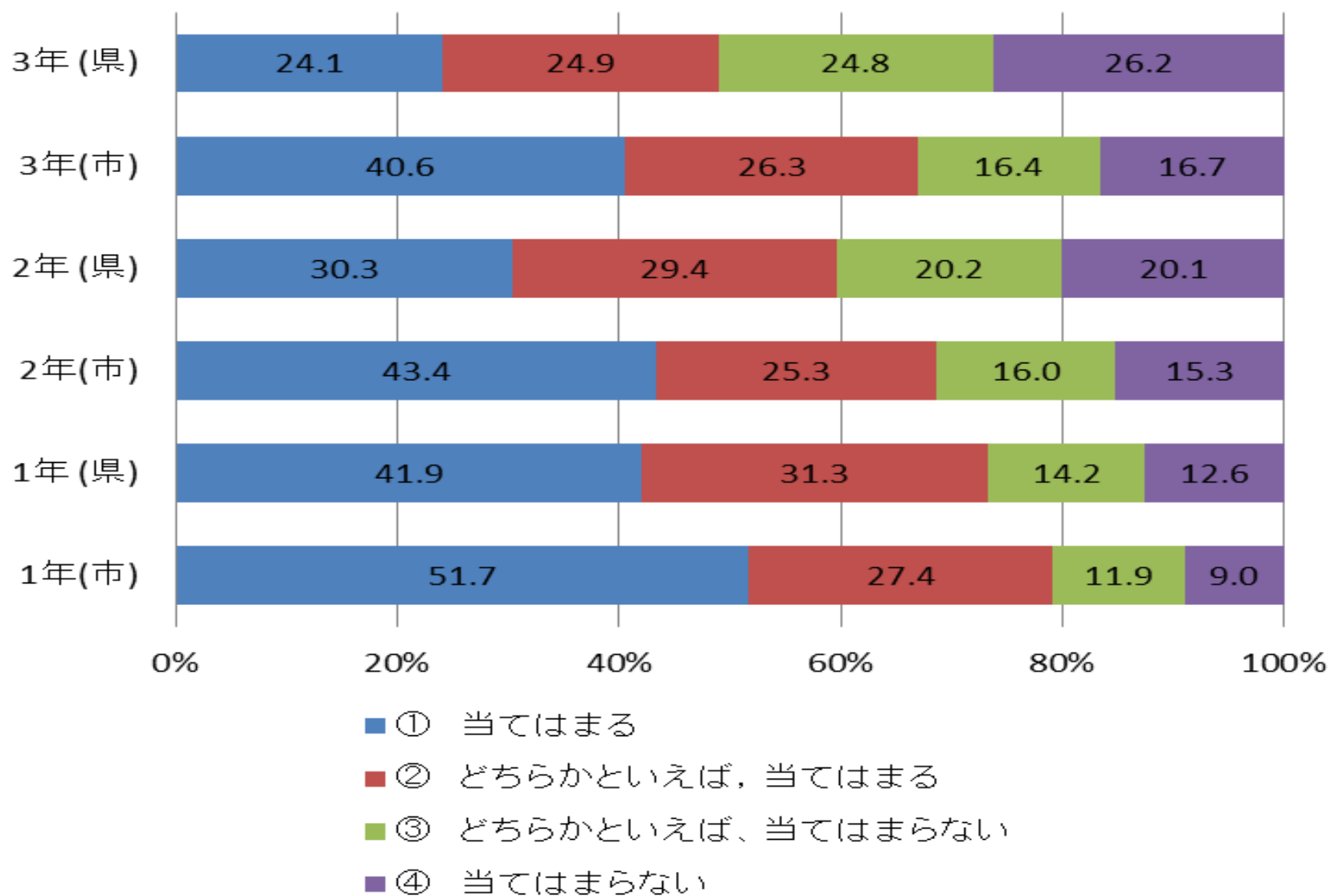
学校の授業の復習をしている



今住んでいる地域の行事に参加している



今住んでいる地域の行事に参加している



平成28年度学習状況調査質問紙より

【学校生活や生活習慣について】

・「学校に行くのは楽しい」という項目は小5, 6年、中1~3年では「そう思う」「どちらかというと思う」と答えた児童がどの学年も8割を超えている。多くの児童生徒たちが楽しいと答えていて今後も児童生徒を中心に据えた教育活動を行っていく。一方で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という児童・生徒に焦点を当てて指導・支援を行っていく必要がある。

・朝食に関しては、ほとんどの児童生徒が食べてきている。小学5, 6年生に関しては「毎日食べる」としている児童が県平均を上回っている。武雄市はこれまで栄養教諭を中核とした推進事業に取り組んできており、食育・健康教育に対する意識はどの学校も高い。現在、ICT利活用教育として、一人一台のタブレットを活用して、企業と連携して食事調査を行ったり、健康教育に関する漫画をPDF化して教材として活用したりしながら実践を行っている。昨年度までの文部科学種からの「スーパー食育スクール」で得た学習効果を本年度も生かし、実践校を増やししながらさらに食育に力を入れている。

平成28年度学習状況調査質問紙より

【家庭学習について】

・宿題や予習復習などの家庭学習においては、特に大きな課題はなく、県と同等か学年によっては上回っているところもある。「予習」に関しては中学2年生をのぞいては「している」どちらかといえば「している」が県平均をやや下回っている。本市が重点を置いているスマイル学習は予習型授業であり、昨年度の実施率を見ると上回っても良い状況である。児童生徒の意識の中、事前の動画視聴を「予習」ととらえる意識がまだ少ないのではと推測される。スマイル学習以外でも予習型の課題を出したり自主学習を奨励するなどの対策は必要である。

【家庭や地域との連携について】

・「今すんでいる地域の行事に参加している。」という項目では、どの学年も県の平均値を大きく上回っており、地域ぐるみで児童生徒の教育に携わっていることが伺える。また、官民一体型学校の拡大で、地域・家庭と学校とのつながりがより一層強まったといえる。さらに今後もコミュニティ・スクールの取り組みやゲスト・ティーチャーとしての地域の方の活用など連携を図っていきたい。